

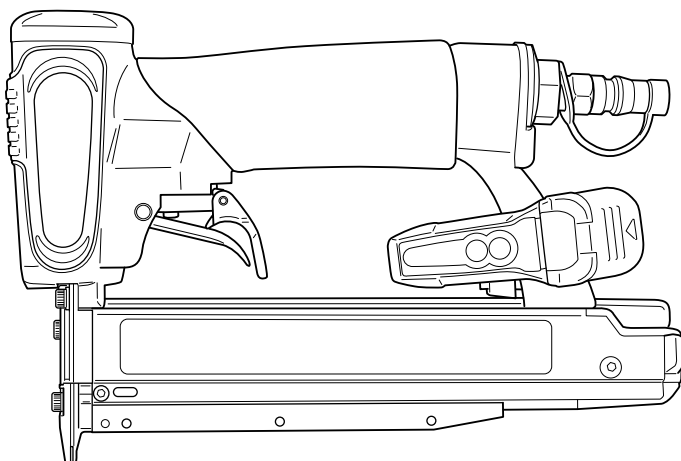
# HiKOKI

## ピン釘打機

NP 35A [ライト付フック]

## 取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に  
大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

# 目 次

	ページ
釘打機の安全上のご注意	2
各部の名称	9
仕 様	9
釘の選び方	10
標準付属品	10
用 途	11
作業前の準備	11
ご使用前に	12
使 い 方	14
保守・点検	20
エアコンプレッサと作業の速さ	21
使用潤滑油	22
ご修理のときは	裏表紙

---

---

## **⚠警告**、**⚠注意**、**注**の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なお注意。

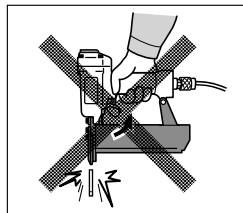
なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

# 釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

## ⚠警告

- この機体はロックレバーを引いた後に、引金を引くだけで釘が発射します。釘を打つとき以外は、引金とロックレバーに触れないでください。誤って釘が発射すると、けがの原因になります。



### 作業前

- ① 保護メガネを使用してください。
  - 作業中は、保護メガネを使用してください。
  - まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。釘を連結している接着剤や打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。
- ② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

釘打機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
- ④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。
- ⑤ きちんとした服装で作業してください。

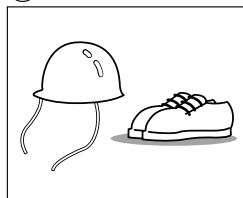
①



②



④

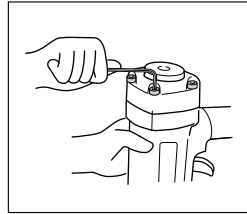


## ⚠警告

### ⑥ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

- ねじがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。  
異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑥



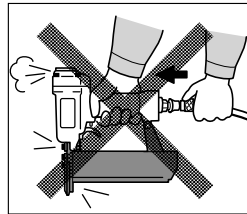
### ⑦ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金とロックレバーに手を触れない。
- 射出口を人体に向けない。  
誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

### ⑧ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。  
異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑧



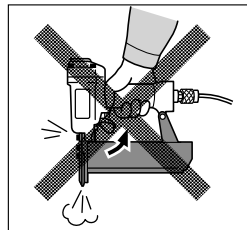
### ⑨ 使用前に安全装置（ダブルトリガ）の点検をしてください。

この機体は、ロックレバーを引いた後に、引金を引かないと、釘が発射されない構造になっています。釘を装てんしない状態で、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- ロックレバーを引いていないのに、引金を引ただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。

異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑨



### ⑩ 用途にあった作業に使用してください。

- この機体は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

## ⚠警告

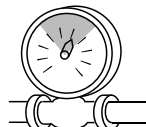
- ⑪ 指定の釘を使用してください。  
指定された釘以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。
- ⑫ 子供を近づけないでください。
  - 作業員以外、釘打機やエアホースに触れさせないでください。  
けがの原因になります。
  - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。  
けがの原因になります。
- ⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。
  - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
  - 作業場は十分に明るくしてください。  
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- ⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

### 作業中

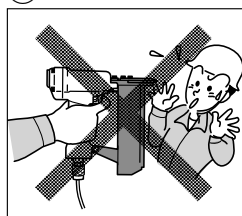
- ① 指定の空気圧力で使用してください。
  - この機体の使用空気圧力範囲は0.44～0.69 MPa {4.5～7 kgf/cm<sup>2</sup>} です。この範囲内で使用してください。  
0.69 MPa {7 kgf/cm<sup>2</sup>} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- ② 人体に射出口を向けないでください。  
人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。  
誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

①

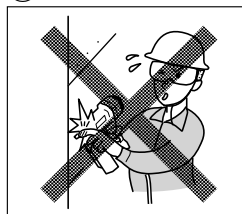
0.44～0.69MPa  
{4.5～7kgf/cm<sup>2</sup>}



②



③



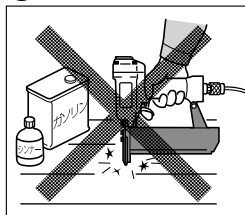
## ⚠警告

### ④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、釘打機やエアコンプレッサを使用しないでください。

釘を打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

④

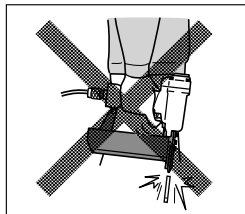


### ⑤ 釘を打ち込むとき以外は、引金とロックレバーに指を掛けないでください。

- 引金に指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- 釘を装てんするときや調整などをするとき、引金に指をかけないでください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑤



### ⑥ ノーズキャップの着脱をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

### ⑦ フックを使用するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

### ⑧ 次の場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

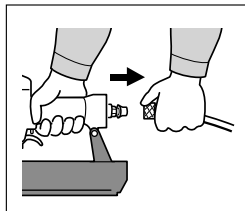
- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、釘まりの直しなどの場合。
- 釘を装てんする場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

### ⑨ 引金に指を掛けた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指を掛けた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑨



## ⚠警告

### ⑩ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。

釘がはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

### ⑪ 作業中はまわりの人に注意してください。

釘を連結している接着剤や打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。

機体や材料などを落としたとき、事故の原因になります。

### ⑫ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

### ⑬ 釘を打つ裏側に、手や人体がないことをよく確認してください。

打った釘が突き抜けたり、釘がそれたりして、けがの原因になります。

### ⑭ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、機体のはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

### ⑮ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

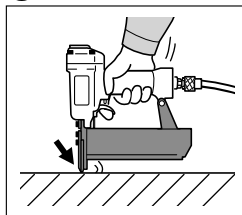
### ⑯ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。

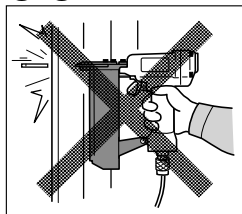
転倒して、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。けがの原因になります。

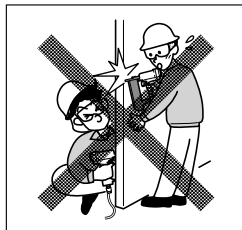
⑩



⑫ ⑬



⑮

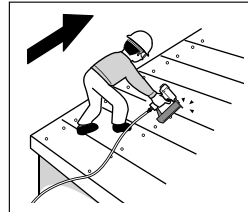
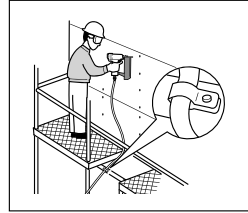


## ⚠警告

### ⑰ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。  
不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。  
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。
- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。  
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

⑰



### ⑱ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

### ⑲ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

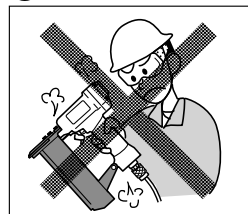
### ⑳ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気て破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

### ㉑ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

㉑



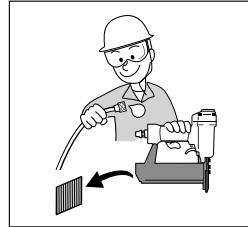


## ⚠警告

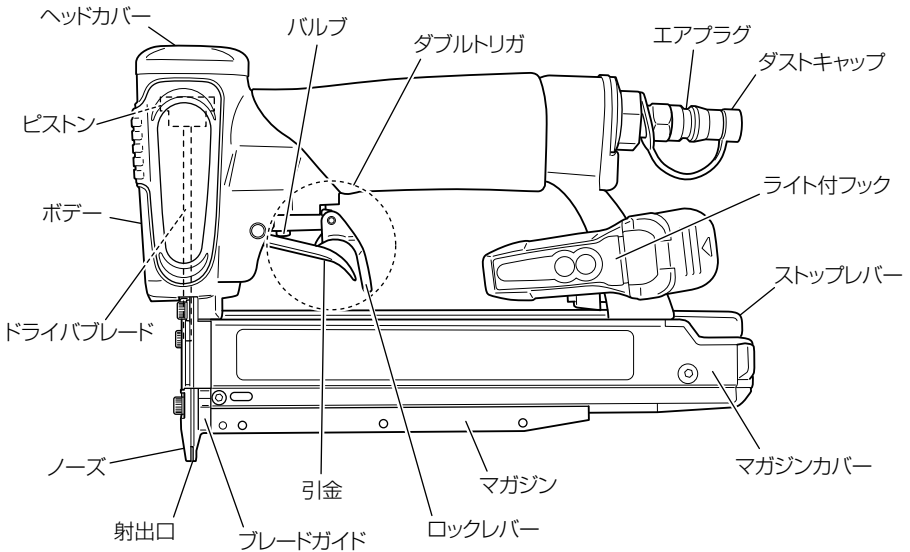
### 作業後

- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。  
釘を残しておくと、次に使用するとき、誤って作動させた場合など、けがの原因になります。
- ② 釘打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。
- ③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。
  - 安全に能率よく作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
  - 付属品のお手入れは、取扱説明書に従ってください。
- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。
  - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。  
安全性が損なわれ、けがの原因になります。
- ⑥ 釘打機の修理は、専門店で依頼してください。
  - 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
  - ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

①



## 各部の名称



## 仕様

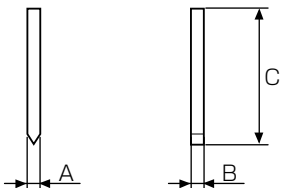
動力形式	ピストン往復動式
使用空気圧力	0.44 ~ 0.69 MPa {4.5 ~ 7 kgf/cm <sup>2</sup> }
能力(使用釘)	ピン釘 P0615、P0619、P0625、P0630、P0635
釘の装てん数	100本(1連)
製品の大きさ	長さ 238 mm × 高さ 162 mm × 幅 47 mm
製品質量	0.9 kg
釘送り方式	圧縮コイルばね式
使用エアホース(内径)	6 mm 以上

# 釘の選び方

この機体は、下の表に示すピン釘が使用できます。

釘は 100 本が 1 連に接着されています。

釘はこのピン釘打機をお買い上げの販売店でお求めください。



釘の頭の色は、それぞれ 2 色あります。  
下地材に合わせてご使用ください。  
寸法はおおよその値を示しております。

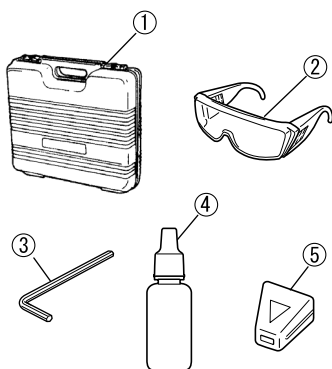
(寸法単位：mm)

釘		A	B	C	材質、頭の色
ピン釘	P 0615	0.6	0.6	15	鉄：茶、ベージュ (B) (Y)
	P 0619			19	
	P 0625			25	
	P 0630			30	
	P 0635			35	

**注** • 上記以外の長さの釘は、使用しないでください。

釘送り不良による空打ち、釘づまりなどが発生し、不具合の原因になります。

# 標準付属品



- ① ケース …………… 1 個
- ② 保護メガネ …………… 1 個
- ③ 六角棒スパナ 3 mm …………… 1 個  
(本体に取付けてあります。)
- ④ 油さし …………… 1 個  
(釘打機・タッカ用オイル入り)
- ⑤ ノーズキャップ (A) …………… 1 個  
(本体に取付けてあります。)

# 用 途

○ 建築内装の巾木・回り縁などの化粧合板止め

**注** ●相手材の形状や硬さによっては、上手に打てない場合がありますので、試し打ちして確認の上、使用してください。

## 作業前の準備

### ○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に次の準備をすませてください。

### 1. エアホースの準備

この機体に使用できるエアホースの内径は 6 mm 以上です。エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

**注** ●エアホースの長さは、30 m 以内のものを使用してください。  
エアホースが長いと圧力が降下して十分な打ち込み力が得られません。

### 2. エアコンプレッサ内のドレンを除去する

水や油が内部にたまりますと、さびが発生したり故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。(詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。)

### 3. 釘の準備

用途に合った釘を準備してください。(前ページ参照)

### 4. 安全点検

#### 警告

- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

20 ページの「保守・点検」を参照し、必ず行ってください。

## ご使用前に

### 警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

### 1. 空気圧力の確認

### 警告

- この機体の使用空気圧力の範囲は 0.44 ~ 0.69 MPa {4.5 ~ 7 kgf/cm<sup>2</sup>} です。この範囲内で使用してください。

空気圧力は、釘打ち込み能力（釘の長さ、部材の硬さなど）に合わせて、0.44 ~ 0.69 MPa {4.5 ~ 7 kgf/cm<sup>2</sup>} の範囲で調整してお使いください。

空気圧力が 0.44 MPa {4.5 kgf/cm<sup>2</sup>} 未満または 0.69 MPa {7 kgf/cm<sup>2</sup>} を超えると機体の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してください。

### 2. 給油について

月に 1 ~ 2 回程度、給油してください。

給油は 2 mL {2 cc} 程度の油をエアホース取付口から入れてください。

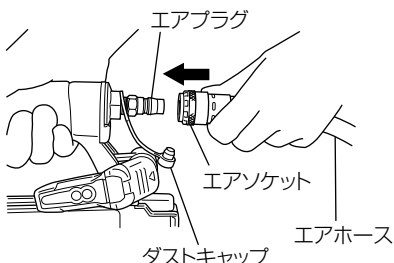
油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を 22 ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

### 3. エアホースを接続する

### 警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金とロックレバーに手を触れない。
- 射出口を人体に向けない。

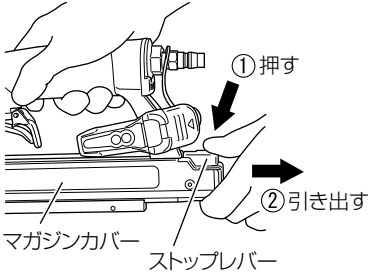


- エアプラグからダストキャップをはずします。
- ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
- エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

## 4. 釘を入れる

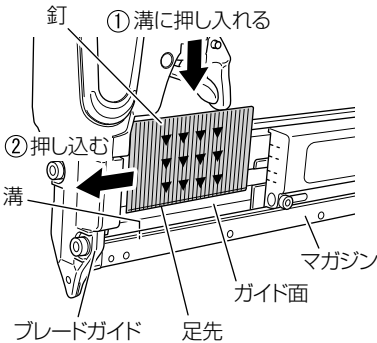
### ⚠ 警告

•釘を装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。



**注** •釘は5本以上連結されたものを使用してください。

○ ストップレバーを軽く押して、マガジンカバーを静かに引き出します。

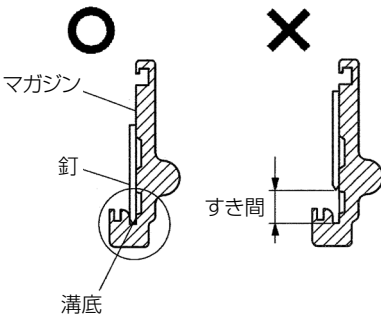


○ ① 釘をマガジンのガイド面に押し当て、釘の足先をマガジンの溝の奥までしっかりと入れます。

○ ② マガジン内の釘を指でブレードガイドの中へ押し込みます。

○ マガジンカバーの後部を前方に押して、釘がマガジンのガイド面から浮き上がらないことを確認しながら、元通りに閉じます。

**注** •釘の足先をマガジンの溝側にして装てんしてください。  
•長さの違う釘を同時に装てんしないでください。



**注** •この機体は15 mmから35 mmまでの長さの釘が無調整で使用できますが、いずれの長さの釘も足先をマガジン下部の溝底に突き当ててください。

# 使 用 方

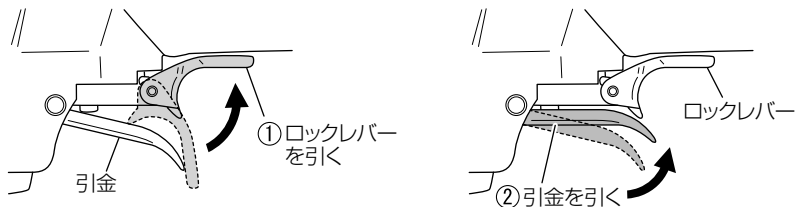
## ⚠ 警告

- この機体はロックレバーを引いた後に、引金を引くだけで釘が発射します。釘を打つとき以外は、引金とロックレバーに触れないでください。
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
- フックを使用するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

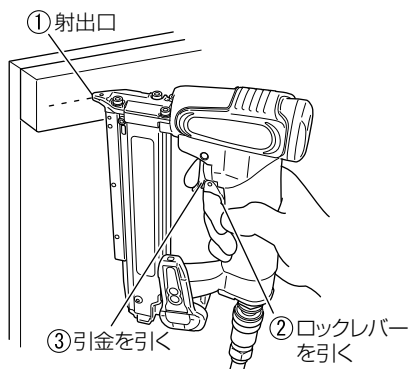
**注** •低温時に使用すると、機体の動作が悪くなる場合があります。

## 1. 引金とロックレバーの使い方

この機体には、安全装置として通常の引金に加えて、ロックレバーを装備しています。釘を打ち込む場合には、ロックレバーを引いた後に引金を引くことで発射します。



## 2. 釘の打ち方

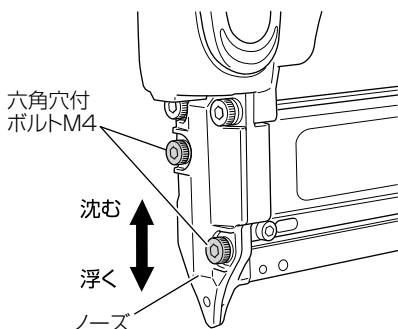


釘を打つ所に射出口を軽く押し当て、ロックレバーを引いた後に引金を引けば一撃で打ち込めます。

### 3. 打ち込み深さの調整

#### ⚠ 警告

- ノーズの調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。



この機体は、ノーズを調整することにより、打ち込み深さを調整できます。

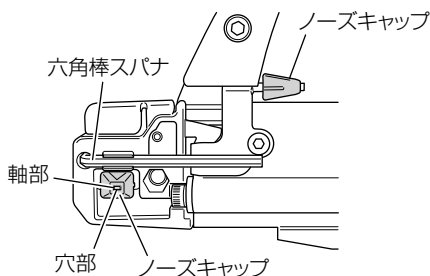
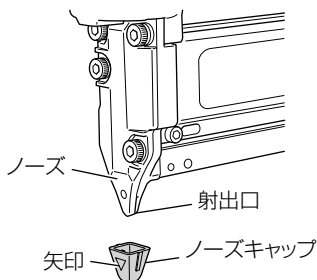
- 六角穴付ボルト M4 (2 本) をゆるめてノーズを上下に動かし調整します。下に取付けると釘が浮く方向になります。
- 調整後は、六角穴付ボルト M4 を締付けます。

### 4. ノーズキャップの使い方

#### ⚠ 警告

- ノーズキャップの着脱をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

- 軟らかい材料への作業のときは、射出口にノーズキャップを付けます。材料の表面にプッシュレバーで傷付けるのを防止できます。
- ノーズキャップの取付けは、矢印の付いている側を前にし、ノーズにさし込みます。(下左図)
- 使用しないときのノーズキャップは、穴部をマガジン裏側の軸部にさし込んでください。(下右図)





## 5. 釘の抜き取り方

### ⚠警告

- 釘を抜き取るときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

#### (1) 釘の残りが 15 本以上のとき

- ストップレバーを押して、マガジンカバーを引き出します。
- 釘をマガジン内から抜き取ります。

#### (2) 釘残りが 15 本未満のとき

- マガジン後部に収納してある六角棒スパナ 3 mm を使用してノーズをはずします。
- ブレードガイドの案内溝から釘を取り出します。  
(20 ページの「保守・点検」の 1 項を参照)

- 注** ●釘残りが 15 本未満になると、ブレードガイド内にある残りの釘が見えにくくなるので、注意して確認してください。

## 6. ライト付フックの使い方

### ⚠警告

- ライト付フックを腰ベルトに掛けて機体を運ぶときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

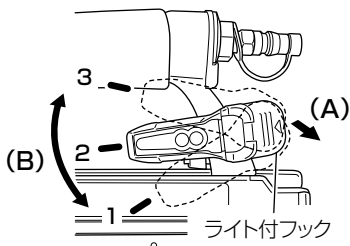
### ⚠注意

- ライトをのぞき込んで、直接ライトの光を目に当てないでください。  
ライトの光が連続して目に当たると目を傷める原因になります。

ライト付フックは

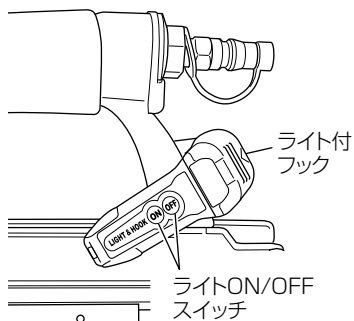
- 作業の合間に腰ベルトなどに吊下げるフックの役目
  - 暗い場所で釘打ち作業する際の補助用ライトの役目
- の 2 つの機能を持っています。

#### (1) フックとしての使い方



- フックを矢印 (A) の方向 (手前側) に引き出します。
- フックを矢印 (B) の方向に回転させます。
- 左図の 1 から 3 のいずれかの位置で、フックをはなしてください。  
中間の位置には調整できません。

## (2) 補助用ライトとしての使い方



- フックの位置を図中1の位置に合わせます。
- ライトのONスイッチで点灯、OFFスイッチで消灯します。電池消耗防止のため、小まめに消してください。このライト付フックには消し忘れ防止のため、15分後に自動的に消灯する回路を組み込んであります。

## ○ ライトの点灯時間の目安

単5 マンガン乾電池……………約 15 時間 (1 回 3 分で 300 回)

単5 アルカリ乾電池……………約 30 時間 (1 回 3 分で 600 回)

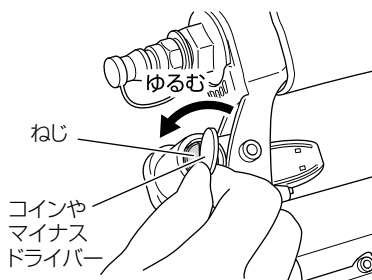
上記時間は目安です。

また、このフックにはお試用としてマンガン乾電池が入っています。

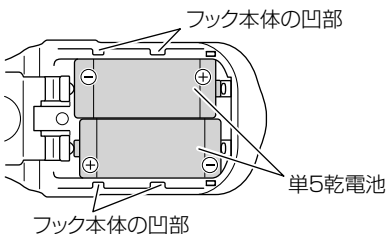
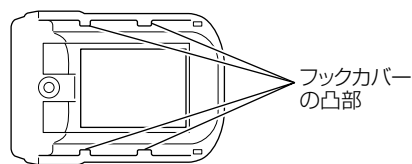
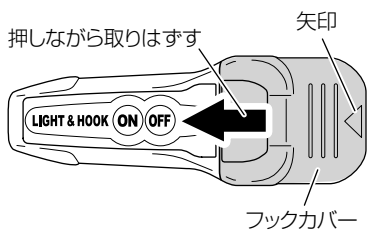
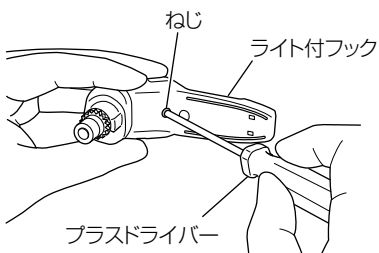
## (3) 電池の交換のしかた

### ⚠注意

- 液漏れ、発熱、故障の原因になるため、下記のことに注意してください。  
電池のプラス電極 (+)、マイナス電極 (-) を正しく入れてください。  
電池は 2 本同時に交換してください。古い電池と新しい電池を混合しないでください。  
使い切った電池は、すぐにフックから取り出してください。
- 電池を一般のごみと一緒に捨てたり、火の中に入れてください。
- 電池は乳幼児の手の届かない所に保管してください。
- 電池の仕様表示に従って正しく使用してください。



- 機体をしっかり支え、コイン (10 円玉など) または、お手持ちのマイナスドライバーを使用してねじをはずします。  
ねじをはずすとフックとスプリングがはずれます。



- フックのねじをプラスチックドライバー (No.1) ではなく、矢印方向へ押しながらフックカバーを取りはずします。
- 電池を取り出し、新しい電池を入れます。(フック本体の電池室の表示に合わせ、プラス、マイナスを正しく入れてください。)
- フック本体の凹部とフックカバーの凸部を合わせながら矢印方向と反対方向に押し込み、フックカバーを取付け、ねじを締付けます。  
電池は、市販品の単5、1.5Vをご使用ください。

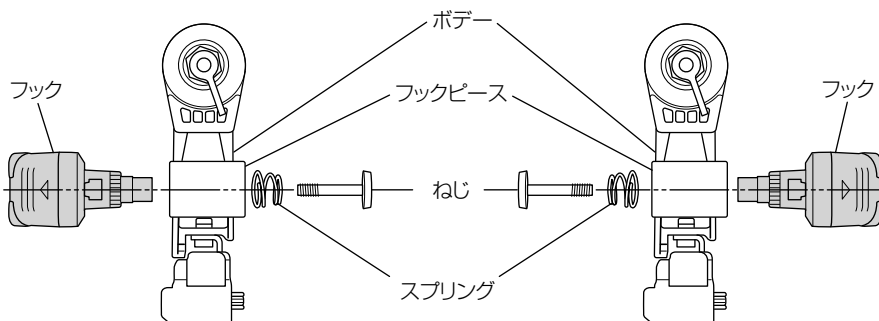
**注** ・ねじの締過ぎに注意してください。

## 7. フックの向きの変え方

### ⚠ 警告

- フックの向きを変えるときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

フックは2方向に向きを変えることができます。向きを変えるときは、コインまたはマイナスドライバーでねじをはずし、フックの取付け位置を変えてから、再び組込んでください。



【裏からみた図】

## 8. 釘の取扱い方

- 注** •釘の扱いをていねいにしてください。

釘を落とすと、連結部が切れます。また、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘づまりなどが発生するため、使用しないでください。

- 釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときは釘梱包箱などに入れてください。

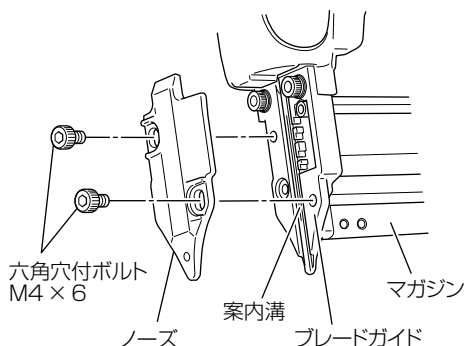
# 保守・点検

## ⚠ 警告

- 釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ず引き金から指をはなし、エアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。

### 1. 釘づまりの直し方

- マガジンに入っている釘を全部抜きます。
- マガジン後部に収納してある六角棒スパナ 3 mm を使用してノーズをはずします。
- ノーズとブレードガイドの案内溝につまった釘、接着剤、破片、木くずなどをマイナスドライバーなどで取り除きます。



- 注** • ドライバブレードの先端が摩耗すると、釘づまりが発生しやすくなります。釘づまりが多発するようでしたら修理を依頼してください。

### 2. 各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。

### 3. ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。

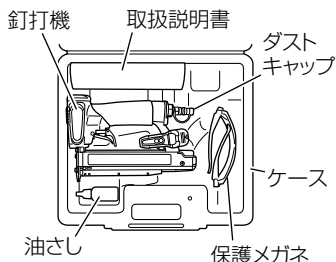
### 4. マガジンの点検

マガジンをときどき掃除してください。中にたまったごみ、木くずなどを取り除いてください。

## 5. 作業後の保管は

### 警告

- 作業後は、釘を全部抜き取ってください。



**注** • エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。機体と付属品は図のようにケースに入れてください。

- 長期間使用しない場合は、
  - さび防止のため、エアホース取付口から給油し、マガジンカバーを開いて2、3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
  - 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
  - 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を次ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖い場所に保管してください。
- お子様の手が届かない乾燥した場所に保管してください。

## エアコンプレッサと作業の速さ

エアコンプレッサは、使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力 (MPa) の関係により、下表を目安に最適な機種を選定してください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力	0.44 ~ 0.49 MPa	0.49 ~ 0.59 MPa	0.59 ~ 0.69 MPa
エアコンプレッサ	{4.5 ~ 5 kgf/cm <sup>2</sup> }	{5 ~ 6 kgf/cm <sup>2</sup> }	{6 ~ 7 kgf/cm <sup>2</sup> }
EC 6SA1 EC 713	135 ~ 125 本	125 ~ 105 本	105 ~ 75 本
EC 813	150 ~ 140 本	140 ~ 120 本	120 ~ 90 本
EC 922	160 ~ 150 本	150 ~ 130 本	130 ~ 100 本
EC 1430H	240 ~ 230 本	230 ~ 200 本	200 ~ 150 本

たとえば、0.59 MPa {6 kgf/cm<sup>2</sup>} の圧力で1分間に120本の速さで打ち込む場合(1秒間に2本)は、上の表からEC 813のエアコンプレッサが必要となることがわかります。

## 使用潤滑油

使用潤滑油は、別売の釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
釘打機・タッカ用オイル		————— [別途販売しております]
その他の オイル 〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タービン油	タービン油各銘柄 ISO VG32～68 (#90～#180)

**注** • 潤滑油は必ず上表の油を使用してください。  
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ  
お問い合わせください。

## お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理  
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、  
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点  
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに  
アクセス

バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)  
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>